

# くにたち兼松講堂 音楽の森コンサート 主な公演記録(2005. 7～)

§ 2005 年 7 月 18 日(月・祝日)

## 『ピアノ四重奏の夕べ～上田京・恵谷真紀子とウィーンの間人たち』

◆記念すべき第1回演奏会。

出演は、ピアニスト・上田京とヴィオラ奏者恵谷真紀子のお二人(共に藝大大学院修士課程卒)とウィーン・フィルの名手のお二人。このメンバーで長年、室内楽のコラボレーションを続けている。

出演 ヴァイオリン: エッカルト・ザイフェルト(ウィーン・フィル)  
ヴィオラ: 恵谷真紀子  
チェロ: ゲアハルト・イーベラー(ウィーン・フィル)  
ピアノ: 上田京  
曲目 モーツァルト: ピアノ四重奏曲第1番ト短調 KV478  
マーラー: ピアノ四重奏曲(1876)イ短調  
ブラームス: ピアノ四重奏曲第1番ト短調 Op.25

§ 2005 年 11 月 13 日(日)

## 『渡邊順生／バッハ／ブランデンブルク協奏曲』

◆わが国の代表的なチェンバロ・フォルテピアノ奏者兼指揮者・渡邊順生(一橋大卒／阿姆斯特ダム音楽院首席卒業)と、彼が率いる日本の古楽演奏界の精鋭たちが参集した「ザ・バロックバンド」が、曲ごとに異なる多彩な編成のバッハの名曲を披露。

指揮・チェンバロ: 渡邊順生  
管弦楽: ザ・バロックバンド  
ナビゲーター: 朝岡 聡  
曲目: 「ブランデンブルク協奏曲」  
第1番 へ長調 BWV1046  
第5番 二長調 BWV1050  
第4番 ト長調 BWV1049  
第2番 へ長調 BWV1047

§ 2006 年 5 月 14 日(日)

## 『吉野直子とアンサンブル・ウィーン＝ベルリン』

◆国際的に活躍するハーブ奏者・吉野直子さんは、父・祖父ともに一橋出身という一橋ゆかりの演奏家! アンサンブル・ウィーン＝ベルリンの凄い演奏家たちと共に兼松講堂に登場。

独奏: 吉野直子(国際的ハーブ奏者)  
W. シュルツ(ウィーン・フィル首席フルート奏者)

H. シェレンベルガー(元ベルリン・フィル首席オーボエ奏者)  
N. トイブル(ウィーン・フィル首席クラリネット奏者)  
M. トウルコヴィッチ(ウィーン・コンツェントウス・ムジクス首席奏者)  
S. ドール(ベルリン・フィル首席ホルン奏者)

管弦楽：一橋大学管弦楽団

曲 目：オール・モーツァルト・プログラム

- ・セレナード第 12 番ハ短調 K388「ナハトムジーク」より(木管五重奏)
- ・フルートとハーブのための協奏曲ハ長調 K299
- ・協奏交響曲変ホ長調 K297b

§ 2006 年7月15日(土)

### 『東京クワルテット特別演奏会』

◆ニューヨークを本拠に、世界で活躍する弦楽四重奏団。

第2 ヴァイオリンの池田菊衛さんは、桐朋学園大の学生時代、一橋大学管弦楽団のエキストラとして“大活躍”した方。そのご縁もあって「懐かしい兼松講堂で是非演奏したい…」と、公演が実現した。

出演： マーティン・ビーヴァー(第1 ヴァイオリン)

池田菊衛(第2ヴァイオリン)

磯村和英(ヴィオラ)

クライヴ・グリーンズミス(チェロ)

曲目： モーツァルト: 弦楽四重奏曲第 19 番ハ長調 K465「不協和音」

武満 徹: 「ア・ウェイ・ア・ローン」(1980)

ドヴォルザーク: 弦楽四重奏曲第 12 番ハ長調 Op.96「アメリカ」

§ 2006 年11月12日(日)

### 『渡邊順生/モーツァルト/ピアノ協奏曲』

◆モーツァルト生誕 250 年記念したオール・モーツァルト・プログラム。

わが国の代表的なチェンバロ・フォルテピアノ奏者兼指揮者・渡邊順生(一橋大卒～阿姆斯特ダム音楽院首席卒業)のフォルテピアノを中心とした多彩なプログラム。使用された2台のフォルテピアノは、フェルディナント・ホフマンにより1790年頃と1795年頃にウィーンで制作されたオリジナル。

モーツァルト時代の楽器で今なお演奏会で使用されるものとしては、わが国に現存するのはこの2台のみと言われている。

指揮・フォルテピアノ： 渡邊順生

フォルテピアノ： 崎川晶子

メゾ・ソプラノ： 村田淳子

管弦楽： ザ・バロックバンド

曲目： ・2 大のピアノのためのラルゲットとアレグロ 変ホ長調

(ロバート・レヴィンによる補筆に基づく)

・ピアノ協奏曲第 23 番イ長調 K488

・ソプラノ、ピアノ、管弦楽のためのコンサートアリア

「どうしてあなたを忘れられよう」K505  
・2 台のピアノのための協奏曲変ホ長調 K365

§ 2007 年 10 月 14 日(日)

『マーキュリー・グリークラブ特別演奏会』

◆ 〈マーキュリー・グリークラブ〉は一橋大学男声合唱団「コール・メルクール」の  
OBを主体とする男声合唱団。東京オペラシティ大ホールでの年 1 回の定期演奏会  
と、隔年ごとのヨーロッパ演奏旅行を行っている。

〈国立ときわ会〉は国立市の市民合唱団で 50 年の歴史を持つ。

指揮：永井 宏(1、2： マーキュリー・グリークラブ)  
木野村雅子(3、4： 国立ときわ会)

曲目：

1. 男声合唱のための「イタリアの歌」 吉岡弘行 委嘱・編曲
2. 永訣の朝 宮澤賢治 詩／西村 朗作曲
3. 混声合唱組曲「旅のかなたに」より  
室生犀星ほか 詩／信長貴富作曲
4. 混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」より  
源田俊一郎ほか編曲

§ 2007 年 11 月 11 日(日)

『梯 剛之のシューベルト“鱒”』

～ウィーンフィル E. ザイフェルトとともに～

◆ 「くにたち兼松講堂 音楽の森コンサート」の第 10 回記念。

国立市制 40 周年記念 “SO-ZO 国立 2007・くにたち芸術の秋” 参加コンサート。  
光の彼方へ聴衆をいざなう盲目の天才ピアニストが、視覚的なハンディキャップ  
を超えて室内楽の代表作に初めてチャレンジした。

出演 ピアノ：梯 剛之  
ヴァイオリン：エツカルト・ザイフェルト(ウィーン・フィル)  
ヴィオラ：恵谷真紀子  
チェロ：平野玲音  
コントラバス：大西雄二

曲目 モーツァルト：ディベルティメント変ホ長調  
(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの為の) K563  
シューベルト：ピアノ五重奏曲イ長調 Op.114 「鱒」

§ 2008 年 5 月 25 日(日)

『ピアニストたちの夢の競演』

～スタインウェイ・ピアノD274披露演奏会～

◆「ボランティアチーム・如水コンサート企画」が“旗振り役”となって、兼松講堂の音楽環境充実のための募金活動を行い一橋大学基金に寄付。その一部でフル・コンサート型のスタインウェイ（D274）等が購入され、そのお披露目演奏会。ベテランから新鋭まで多彩な名手の皆さんが多彩なプログラムを披露した。

出演者と曲目(演奏順)

- 菊地裕介 ショパン: マズルカ op.33-1、子守唄 op.57  
ドビュッシー: “映像” 第一集より「水の反映」  
“前奏曲集” 第二巻より「花火」
- 野原みどり ラヴェル: 水の戯れ  
リスト: 巡礼の年— 第2年“イタリア”より  
「ダンテを読んで—ソナタ風幻想曲」
- 神谷郁代 モーツァルト: ロンド イ短調 K511  
シューベルト: 即興曲 Op.90 より 2 番、3 番、4 番
- 江口 玲 ガーシュウィン(江口玲 編): ラプソディー・イン・ブルー

§ 2008 年 11 月 9 日(日)

『渡邊順生/モーツァルト&ベートーヴェン』

◆わが国を代表するチェンバロ・フォルテピアノ奏者兼指揮者・渡邊順生氏（一橋大卒）と古楽演奏界の精鋭たちによるコンサートは、「クラシックな兼松講堂では古楽演奏の響きが格別…」というお声に応じて第3回目。当コンサートの“定番”に。使用されたフォルテピアノは、ウィーンの著名なピアノ製作者ナネット・シュトライヒャーの作（1818年製）。ベートーヴェンは彼女の楽器をこよなく愛したといわれている。

出 演 フォルテピアノ・指揮: 渡邊順生  
フォルテピアノ: 崎川晶子  
管弦楽 ザ・バロックバンド  
ナビゲーター 田辺秀樹(一橋大学大学院言語社会研究科教授)

曲 目

- ①モーツァルト「ピアノと管楽器のための五重奏曲」変ホ長調 KV452
- ②ベートーヴェン「ピアノ四重奏曲」変ホ長調 Op.16
- ③ベートーヴェン「ピアノ協奏曲第4番」ト長調 Op.58

■演奏

- ① 崎川晶子(フォルテピアノ) 本間正史(オーボエ・東京都響)  
岡本正之(ファゴット・東京都響) 坂本 徹(クラリネット)  
塚田聡(ホルン・東フィル)

- ②渡邊順生(フォルテピアノ)林智之(ヴァイオリン・N響)花崎淳生(ヴィオラ)  
藤村俊介(チェロ・N響)
- ③指揮&フォルテピアノ:渡邊順生  
管弦楽:ザ・バロックバンド(ピリオド楽器使用)

§ 2009年5月31日(日)

『伊藤 恵のショパンの世界』

- ◆「2009年日本・ポーランド外交関係樹立90周年&2010年ショパン生誕200年」を記念した“兼松講堂ショパンプロジェクト2009”のメイン・コンサート。この演奏会に先立って、シンポジウム『日本人はなぜショパンが好きか』を、伊藤恵さん、M. シュミットさん(ポーランド大使館経済部)ほかをお招きし開催(4月12日)。

曲 目 (オール・ショパン・プログラム)

「練習曲」作品25より1、2、3番  
「バラード」第4番 へ短調 作品52  
「3つのマズルカ」作品59-1、2、3  
「小犬のワルツ」作品64-1  
「幻想即興曲」嬰ハ短調 作品66  
「スケルツォ」第4番 ホ長調 作品54

「ピアノ協奏曲」第1番ホ短調 作品11(弦楽四重奏伴奏版)

■共演:東京フィルハーモニー交響楽団のトップメンバーによる

弦楽四重奏団

第1ヴァイオリン	荒井 英治
第2ヴァイオリン	渡辺 美穂
ヴィオラ	中村 洋乃理
チェロ	高麗 正史

§ 2009年10月24日(土)

『蓼沼姉妹と仲間たち』～一橋大学基金のための特別演奏会～

- ◆一橋ゆかりの蓼沼姉妹と若い音楽仲間たちによるコンサート。  
ご出演料とコンサート収益(計100万円)は、全額、一橋大学基金に寄贈された。
- ◆一橋大学元学長・蓼沼謙一名誉教授を父に持つ蓼沼恵美子さん・明美さん姉妹は、何れも東京藝術大学音楽学部器楽科首席卒業で、ソロや室内楽等の分野でご活躍中の才媛ピアニスト。  
恵美子さんのご主人の澤和樹氏(東京藝大教授)及び長女・亜樹さん(藝大在学中)はいずれもヴァイオリニストという音楽一家。

## 曲 目

- ・ピアノ連弾 シューベルト「ロンド」イ長調 op107(D951)
- ・ヴァイオリン独奏
  - マスネ「タイスの瞑想曲」
  - エルガー「愛の挨拶」
  - クライスラー「愛の喜び」
- ・ヴァイオリン2重奏
  - ショスタコビッチ「2つのヴァイオリンとピアノのための3つの舞曲」
- ・ピアノ連弾 ドボルザーク「スラブ舞曲」op.72 から第1、2、7番
- ・ピアノ独奏 ショパン「バラード第1番」ト短調 op23
- ・室内楽 シューマン「ピアノ五重奏曲」変ホ長調 op44

## 出 演

ピアノ： 蓼沼恵美子・蓼沼明美  
ヴァイオリン： 澤 和樹・澤 亜樹  
ヴィオラ： 吉田 篤  
チェロ： 伝田正則

§ 2009 年11月23日(月・祝日)

### 『瀬崎明日香ヴァイオリンリサイタル』

- ◆ 『伊藤恵のショパンの世界』に続く、実力派によるリサイタル・シリーズの第2弾。東京藝大を首席卒業後、日本音楽コンクール第1位ほか内外の著名コンクールで上位入賞。パリ国立高等音楽院でR.パスキエ、J=J.カントロフら名手に師事しつつ、活躍の場を内外に展開。トッパン・ホールが若手実力派を招聘する“エスポワール・シリーズ”（全3回公演）に出演。共演ピアニストは若き俊英、E. シュトロッセをフランスから招聘。エネルギッシュなヴァイオリンとそれを包み込む柔らかなピアノとのコラボレーションは、聴衆を魅了した。

出 演 瀬崎明日香(ヴァイオリン)  
エマニュエル・シュトロッセ(ピアノ)

曲 目 ヴィターリ：シャコンヌ ト短調  
ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調 op.78「雨の歌」  
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第9番 イ長調 op.47「クロイツェル」  
ビゼー＝フバイ：「カルメンによる華麗な幻想曲」 op. 3

§ 2010 年5月30日(日)

### 『J.S.バッハ “ヨハネ受難曲”』

～ピリオド楽器使用／ピリオド唱法による～

◆古楽声楽界の現代最高の名テノール・J. エルウイス、わが国の代表的古楽器演奏家・渡邊順生（一橋大卒／アムステルダム音楽院首席卒業）ならびに日本の古楽演奏界の声楽、器楽の精鋭たちによる、兼松講堂で初めてのバッハ不朽の名作の演奏会。「兼松講堂の素晴らしい雰囲気と響きの中で、とても良い演奏が出来た。」「聴衆の集中度に驚いた。ヨーロッパでは考えられない。」とは、J. エルウイス氏の率直な感想。

◆渡邊順生氏は優れたバッハやモンテヴェルディの演奏により第42回(2010年度)「サントリー音楽賞」を受賞したが、本公演は受賞対象公演の1つとなった。

## 出演

共同音楽監督 / (福音史家) ジョン・エルウイス John Elwes (テノール)

共同音楽監督 / 指揮・チェンバロ 渡邊 順生

プレトーク 磯山 雅 [国立音楽大学教授]

(イエス) 小笠原美敬 (バス)

管弦楽 ザ・バロックバンド

コンサートミストレス 荒木優子

独奏チェロ 花崎 薫 (新日本フィル首席奏者)

§ 2010年7月4日(日)

## 『ウィーンの風～上田京 & 恵谷真紀子とウィーンの仲間たち』

◆ピアニスト・上田京とヴァイオラ奏者恵谷真紀子のお二人は、ウィーン・フィルの名手二人と共に室内楽のコラボレーションを長年にわたり続けており、2005年7月の第1回「くにたち兼松講堂 音楽の森コンサート」以来2回目の出演。

◆今回は、ウィーン国立歌劇場の名花として活躍したわが国オペラ界の名ソプラノ、佐々木典子さんをゲストに招き、“ウィーンの薫り”をお届けした。

出演 ヴァイオリン: エックハルト・ザイフェルト (ウィーン・フィル)

ヴァイオラ: 恵谷 真紀子

チェロ: ゲアハルト・イーベラー (ウィーン・フィル)

ピアノ: 上田 京

コントラバス: 田中 洪至

特別出演 佐々木典子 (ソプラノ)

## 曲目

○ベートーヴェン: 弦楽三重奏曲より第1楽章

○モーツァルト: ピアノ三重奏曲より第1楽章

○シューマン: ピアノ四重奏曲 Op. 47

○モーツァルト: モテット“踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ” K. 165

○ヘンデル: 歌劇「クセルクセス」より“オンブラ・マイ・フ”

○ 歌劇「リナルド」より“私を泣かせてください”

○レハール: 喜歌劇「メリー・ウイドウ」より“ヴィリアの歌”

§ 2011年6月12日(日)

『山形由美～魅惑のフルートの世界』

～デビュー25周年記念リサイタル～

- ◆1986年のデビュー以来、コンサート活動に加えてTV・ラジオでも活躍。これまで2000回を超える公演や放送を通じてフルートに対する人々の関心を広く集め、フルート愛好者を大きく増やした功績は大きい。素敵なトークと共に、古典的名曲からミュージカルまで多彩なプログラムを披露。
- 3ヶ月前の東日本大震災により那須のご自宅が被災された山形さん。アンコール曲「故郷（ふるさと）」には聴衆の多くが涙した。

出演 フルード: 山形 由美  
ピアノ: 榎本 潤  
チェロ: 金子 鈴太郎

曲目

- OG. F. ヘンデル: フルードソナタ ト単調 Op. 1 No. 2
- OF. J. ハイドン: ピアノ三重奏曲 二長調 Hob XV-16
- 加藤昌則: 「イタリアオペラで綴る三都物語」
- OF. ドップラー: ハンガリー田園幻想曲 Op. 26
- OS. メルカダント: フルード協奏曲ホ短調より第3楽章
- ON. ロータ: 「ロミオとジュリエット」
- OA. ロイド＝ウェバー: 「オペラ座の怪人」より  
序曲／夜の音楽／オペラ座の怪人

§ 2011年11月27日(日)

第20回記念コンサート 兼松講堂ホール・オペラ

『モンテヴェルディ／ポッペアの戴冠』

～渡邊順生／サントリー音楽賞受賞記念～

「ホール・オペラ ㊦」はサントリーホールの登録商標。同ホールのご好意によりこの名称を使用した。

- ◇◇わが国を代表するチェンバロ・フォルテピアノ奏者兼指揮者・渡邊順生氏（一橋大卒）が「西洋音楽史上、最大の作曲家」と高く評価するのはバッハでもモーツァルトでもなく、バロック初期のイタリアの大作曲家C. モンテヴェルディ。作曲家晩年の傑作ながら、演奏機会の少ないオペラ史上重要な古典的作品の上演が、格調高い演奏と演出により「文化の殿堂」兼松講堂で実現した意義は大きい。

- ◆指揮／チェンバロ: 渡邊順生
- ◆監修／解説／対訳: 礒山 雅(国立音楽大学教授)
- ◆演出: 館 亜里沙(東京藝術大学大学院生)
- ◆配役:



ローマ皇帝ネローネ	内之倉勝哉(テノール)
皇妃オッタヴィア、美德の神	高橋織子(ソプラノ)
貴人オットーネ	湯川亜也子(メゾソプラノ)
その妻ポッペア	阿部雅子(ソプラノ)
貴婦人ドウルジッラ	安田祥子(ソプラノ)
哲学者セネカ	小田川哲也(バス)
ポッペアの乳母アルナルタ	押見朋子(メゾソプラノ)
オッタヴィアの乳母	布施奈緒子(メゾソプラノ)
兵士、セネカの親友、宮廷詩人ルカーノ	長尾 謙(テノール)
兵士、セネカの親友、解放奴隷	葛西健治(テノール)
セネカの親友、警吏	狩野賢一(バス)
皇妃の女官ダミジエツラ、女神パラス	西村有希子(ソプラノ)
幸運の神、小姓	櫻田智子(ソプラノ)
愛の神、ヌトリーチェ(乳母)	布施奈緒子(メゾソプラノ)

◆管弦楽：ザ・バロックバンド～ピリオド楽器使用～

ヴァイオリン	伊左治道生、渡邊慶子、廣海史帆、宮崎容子
コルネット	上野訓子、堀川仁美
リコーダー	向江昭雄、古橋潤一
ヴィオラ・ダ・ガンバ	平尾雅子
チェロ	エマニュエル・ジラール
リュート	金子 浩
ハープ	西山まりえ
ファゴット	古橋潤一
オルガン	崎川晶子

◆その他：	ダンサー：坂本沙織
	助演：牧田潤子、五十嵐充俊、八坂葉子
	衣装提供：平尾雅子

§ 2012年5月27日(日)

『新日本フィルハーモニー交響楽団』

ベートーヴェン生誕250年(2020)プロジェクト

Vol. 1 「名曲の陰に隠れた名曲たち」

- ◆8年後の2020年は生誕250年を迎える“ベートーヴェン・イヤー”。音楽社会史がご専門の西原稔教授(桐朋学園大学音楽学部長)の監修のもと、《ベートーヴェン生誕250年(2020)プロジェクト》と名付けたシリーズを2020年に向けて随時開催し、この楽聖の音楽を様々な“切り口”で取り上げる長期的企画の第1回目。

- ◆小澤征爾が鍛え上げて40周年を迎えた新日本フィル。本格的実力派オーケストラが兼松講堂に初登場。若い実力派指揮者とソリストたちの熱い演奏が聴衆を魅了した。

出演 指揮 大井剛史  
独奏 菊地裕介(Pf)・瀬崎明日香(Vn)・上森祥平(Vc)  
解説 広瀬大介(青山学院大学准教授・一橋大学非常勤講師)

曲目 ・序曲『献堂式』ハ長調 Op.124  
・ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲 ハ長調 Op.56  
・交響曲 第4番 変ロ長調 Op.60

⇒ <http://jfn.josuikai.net/circle/josuiconcert/pdf/20120527concert.pdf>

§ 2012年11月25日(日)

『伊藤恵 ベートーヴェンを弾く』

ベートーヴェン生誕250年(2020)プロジェクト

Vol. 2 「ピアニスト・ベートーヴェン、ウィーンデビュー」

- ◆1792年(22歳)、「ピアニスト」と「作曲家」の二つの顔を持った若い音楽家は巨匠ハイドンに師事すべく生誕地ボンからウィーンに。3年後には早くも堂々たる4楽章形式の3曲の「ピアノ・ソナタ第1～3番」を作曲、師ハイドンの前で演奏。その年の暮にはハイドン主催の音楽会で自作の「ピアノ協奏曲第1番」を自ら演奏するなど、まずはピアニストとして華々しくウィーンデビューし、一躍ウィーン音楽界の寵児に。
- ◆藝大教授の伊藤恵さんは「ミュンヘン国際音楽コンクール・ピアノ部門」で唯一の日本人優勝者。直後のミュンヘン・デビューで、サヴァリッシュ指揮バイエルン国立歌劇場管弦楽団と共演した曲が、本日のベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第1番ハ長調」。

出演 独奏 伊藤恵  
指揮 高井 優希  
管弦楽 兼松講堂ベートーヴェンプロジェクト管弦楽団  
(一橋大学管弦楽団の精鋭たちによる特別オーケストラ)

曲目

・ピアノ・ソナタ第2番イ長調 作品2-2(1793～94年)  
・ピアノ・ソナタ第8番ハ短調 作品13『悲愴』(1797～98年)  
  
・悲劇『エグモント』付随音楽 作品84—序曲(1809～10年)  
・ピアノ協奏曲第1番ハ長調 作品15(1793～95年)

⇒ <http://jfn.josuikai.net/circle/josuiconcert/pdf/20121125concert.pdf>

§ 2013 年5月19日(日)

『名歌手たちの夢の饗宴』～ヴェルディ生誕 200 年記念～

- ◆イタリア・オペラ界の巨匠 G.ヴェルディの生誕 200 年を記念した、立川市の「立川オペラ愛好会」との共催公演。二期会・藤原歌劇団などのトップスター歌手の皆さんが相集い、ヴェルディの名作を共演した華麗なステージ。チケットは早々に完売し、多くの皆さまにご迷惑をおかけした。ご出演の 8 人のうち 5 人の皆さんが、新春恒例の「第 56 回 NHK ニューイヤーオペラコンサート (2013)」に出演している。

◆当日のプログラム

⇒ <http://jfn.josuikai.net/circle/josuiconcert/pdf/1305kanepro.pdf>

§ 2013 年11月30日(土)

『若き巨匠たちと桐朋学園の精鋭たちのベートーヴェン』

ベートーヴェン生誕250年(2020)プロジェクト Vol. 3

- ◆日頃聴く機会が少ない主要音楽大学のオーケストラを兼松講堂にお招きするプランと、ベートーヴェン・プロジェクトを組み合わせたコンサートが桐朋学園大のご協力で実現。指揮の沼尻竜典さんは内外で大活躍する若き巨匠。今夏、かのフルトヴェングラーが総監督を務めたドイツのリュール歌劇場の音楽総監督に就任されている。ヴァイオリンの戸田弥生さんは、超難関のエリーザベト王妃国際音楽コンクールに優勝以来、今や日本を代表するヴァイオリニストの一人。この若き両巨匠と共演した桐朋学園の精鋭の皆さんの演奏は緊張と共演の喜びに溢れ、さながら将来の「サイトウキネンオーケストラ」を彷彿させた。

出演 指揮 沼尻 竜典  
独奏 戸田 弥生  
管弦楽 桐朋学園オーケストラ  
ナビゲーター 西原 稔(桐朋学園大学教授)

曲目 (オール・ベートーヴェンプログラム)  
祝賀メヌエット WoO.3  
ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61  
交響曲第7番 イ長調 Op.92

◆当日のプログラム

⇒ <http://jfn.josuikai.net/circle/josuiconcert/pdf/1311kanepro.pdf>